

2. 城山公園の概要

2.1 城跡の現況と課題

(1) 飯山城の歴史

飯山城の歴史、築城から現在に至るまでの絵図を用いながら概観します。(参考文献：飯山市ふるさと館叢書 第4集「飯山城と城下町」)

(ア) 築城

飯山城は、永禄7年(1564)年に越後の上杉謙信が信濃一円に勢力を伸ばしてきた甲斐の武田信玄に対抗して、越後の防衛・信濃経略の前線基地として本格的に築城しました。

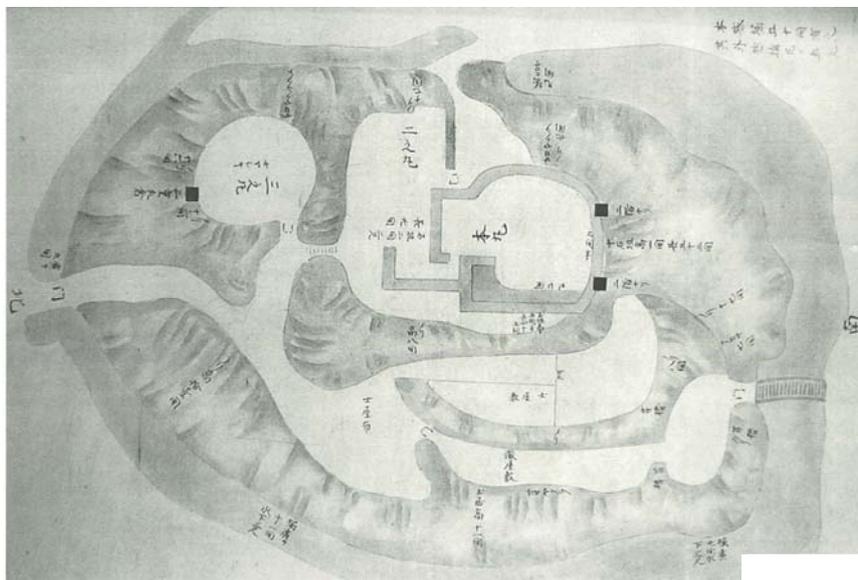


図 2.1.1 諸国居城図 飯山城 以粗之図写

(イ) 城下町の建設と飯山藩の成立

天正10(1582)年、上杉景勝の城代として岩井氏父子が入城し、翌11年岩井信能(のぶよし)が城代となり、本格的な町づくりが始まりました。

江戸時代に入ると、めまぐるしく城主が交代しますが、比較的長い期間、城主を務めた堀氏や松平氏の新田開発、開堰、治水対策や城下町の整備により、松平氏の頃には、ほぼ飯山城下町が完成しました。

享保2(1717)年、糸魚川から入封した本多氏は当初2万石、後に実質3万5千石の城主として代々飯山に定着し明治維新(1868年)まで9代、151年にわたって務めています。この間の飯山城を絵図をもとに概観します。

<17世紀中ごろ～18世紀初頭の飯山城>

正保の飯山城絵図(1645年頃：図2.1.2)には、二ノ丸と本丸の間に石垣が描かれ、本丸には二重櫓(やぐら)が2棟、三ノ丸にも1棟建てられています。門は南大手(追手)門をはじめ、後代に南中門、北中門、二ノ丸門、本丸門と呼ばれた門がはっきりと描かれています。

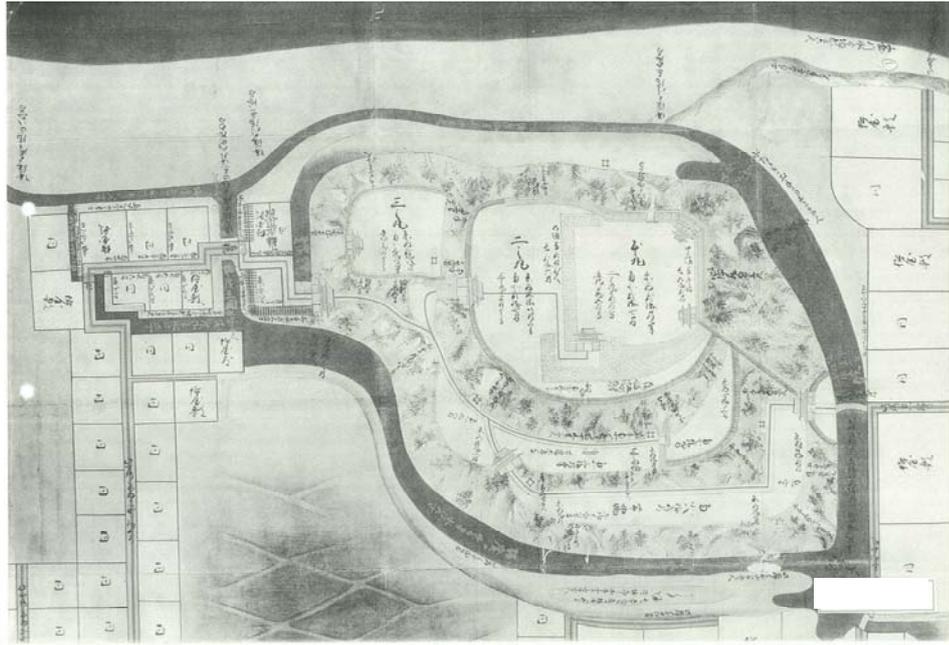


図 2. 1. 2 正保の絵図 (1645 年頃)

曲輪^(注3)の周囲には柵をめぐらせていますが、本丸の南と東側のみ板塀となっています。

また、大手門にかかる堀は「堀広さ差渡り十七間(約 30.6m)水深五尺五寸(約 1.66m)」と記されており、かなり広い堀でした。北側への出丸拡張や石垣は、岩井氏以降松平氏入封までの間に築かれたと推測されます。

その後の絵図の変化をみると、城の規模については、大きな変化はありませんが、曲輪の柵が土塀に変わっており、松平氏により確実に整備されたことがわかります。

飯山城には天守閣はありませんでしたが、本丸に当初二棟、三ノ丸に一棟の二重櫓がありました。

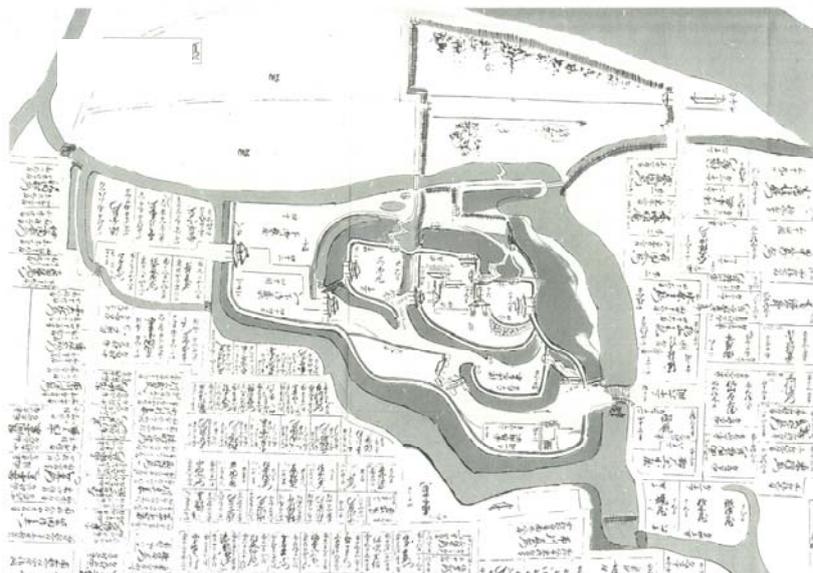


図 2. 1. 3 松平時代城下町絵図 (1639 年から 1705 年頃までの間)

注 3) 曲輪：城にめぐらせた切岸や堀によって他と画された平場

<18 世紀以後：本多氏時代の飯山城>

18 世紀以降の本多時代（1717～1868 年）の絵図はいくつかありますが、本多時代飯山城下町絵図では、城内部は描かれていませんが、北側が小さくなっています。19 世紀の中頃と考えられています。

弘化 4（1847）年の善光寺地震では、石垣や塀、門・御殿、櫓など多くの城内構築物が半壊、全壊したと記録にあります。その後の嘉永 2 年から 4 年にかけて、西曲輪住居や二ノ丸御殿が再建されたとあります。現在に残る石垣もこのとき全面修復されたと推測されます。なお、他の建物がどの程度修復されたのかは不明です。

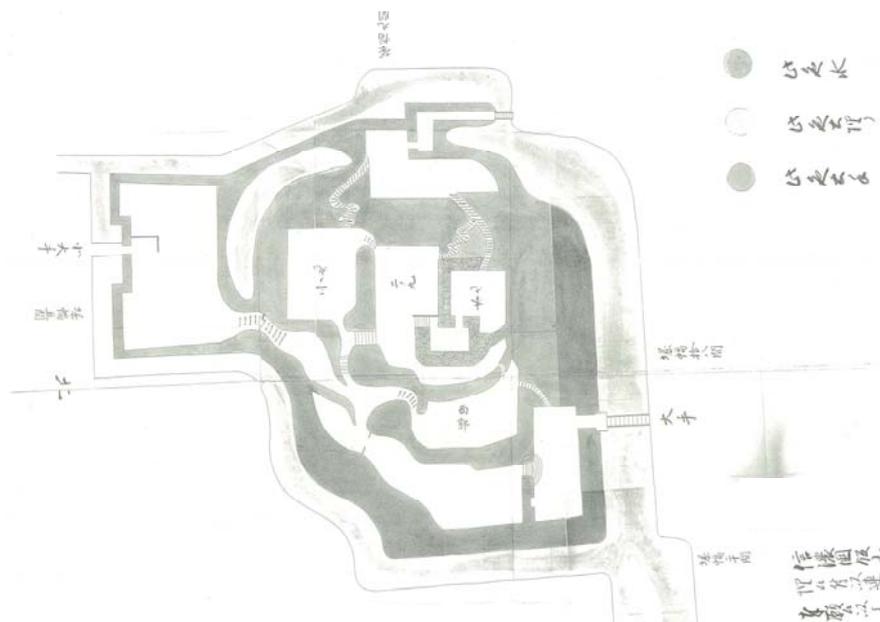
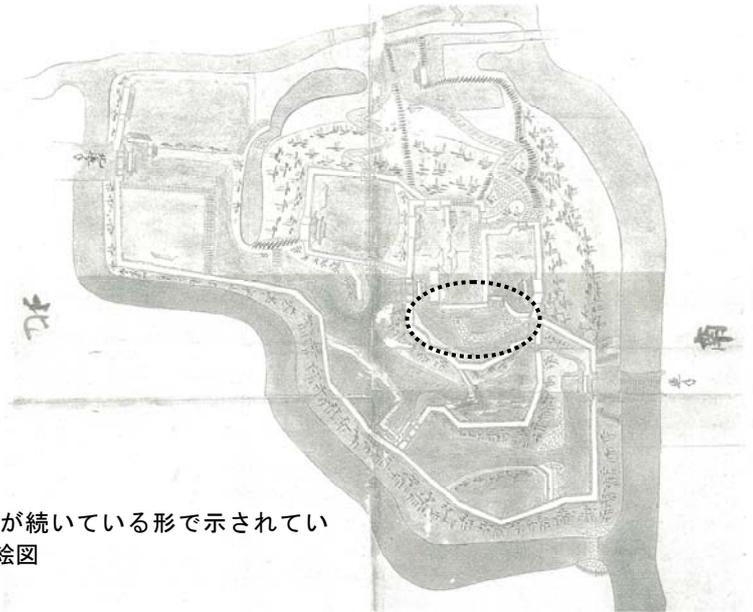


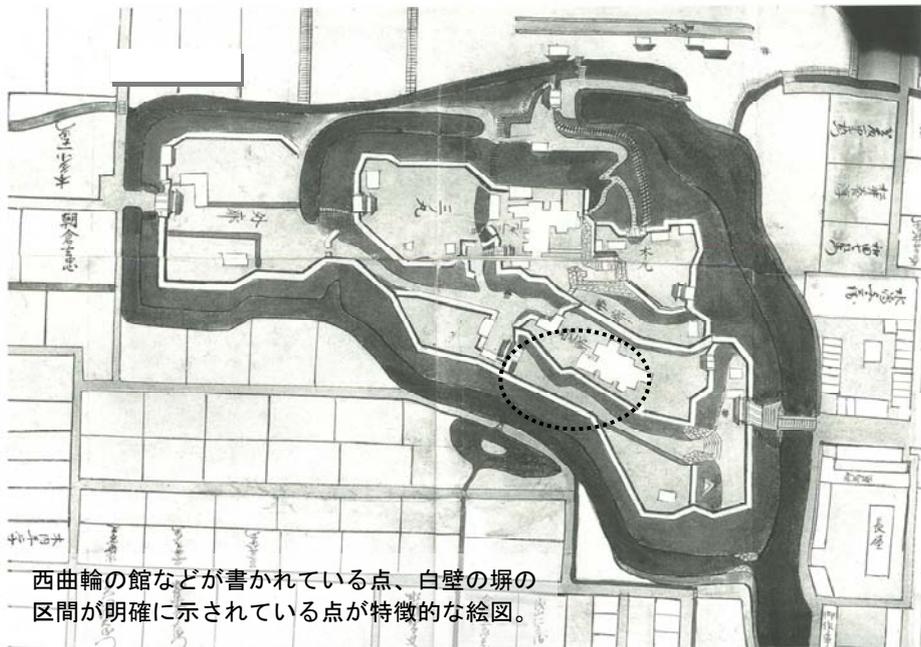
図 2.1.4 飯山城絵図（安永 2 年）



図 2.1.5 飯山城絵図（弘化 4 年）



本丸西側に石垣が続いている形で示されている点が特徴的な絵図



西曲輪の館などが書かれている点、白壁の塀の区間が明確に示されている点が特徴的な絵図。

図 2.1.6 そのほかの飯山城の絵図（いずれも年代は不明）

(ウ) 飯山戦争

慶応4年(1868)年、浪士隊による飯山戦争では、城内も炎上し、櫓や塀などは消失しました。

(エ) 飯山城の解体と城山公園

明治4(1871)年の廃藩置県及び明治6(1873)年の廃城令により、門や櫓、御殿などの建物のうち、門のいくつかは払い下げにより移築されました。その他の多くは火災に遭ったこともあり、姿を消しました。

したがって、現在の城山公園には往時の様相を伺わせるような遺構は石垣のみで、城址公園として市民の憩いの場所として利用されています。

(2) 飯山城の特徴と城跡価値 ～縄張と遺構～

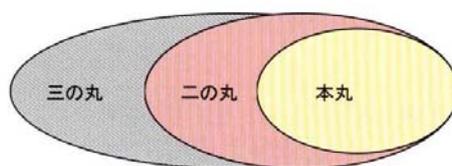
城山公園に残る往時の遺構は、石垣や土塁、切岸などがあり、独立丘陵の平山城であったため、城自体は市街化せず、ほぼ当時の規模と形状を残しており、近世城郭の中でも貴重な城跡といえます。

この特徴に基づいて、昭和40年に長野県史跡に指定されています。往時の縄張と現在の地形との重ね合せ図を次ページに示します。

(ア) 縄張

上杉謙信は、城の周りに堀をめぐらし、丘は傾斜を削ってさらに急にし、丘の上には土塁を築いたものと考えられています。

城内の構造は、南端の最も高い部分を本丸として、北に向かって二ノ丸、三ノ丸を階段状に配置するもので、梯郭式(ていかくしき)(階段式)の典型例とされています。



「うしろ堅固の城」は本丸の後ろからは攻められないという条件のもと、兵の配備を考えた場合、他の形式よりも少人数で防御できるという利点があるといわれています。

外周の堀は埋められていますが、戦国～江戸時代まで大きく変化せず、防御のための形状全体が今もなお残されている城は全国的にもわずかとされています。飯山城跡としての価値はこの点にあります。



写真 空からみた飯山城と縄張りの形状

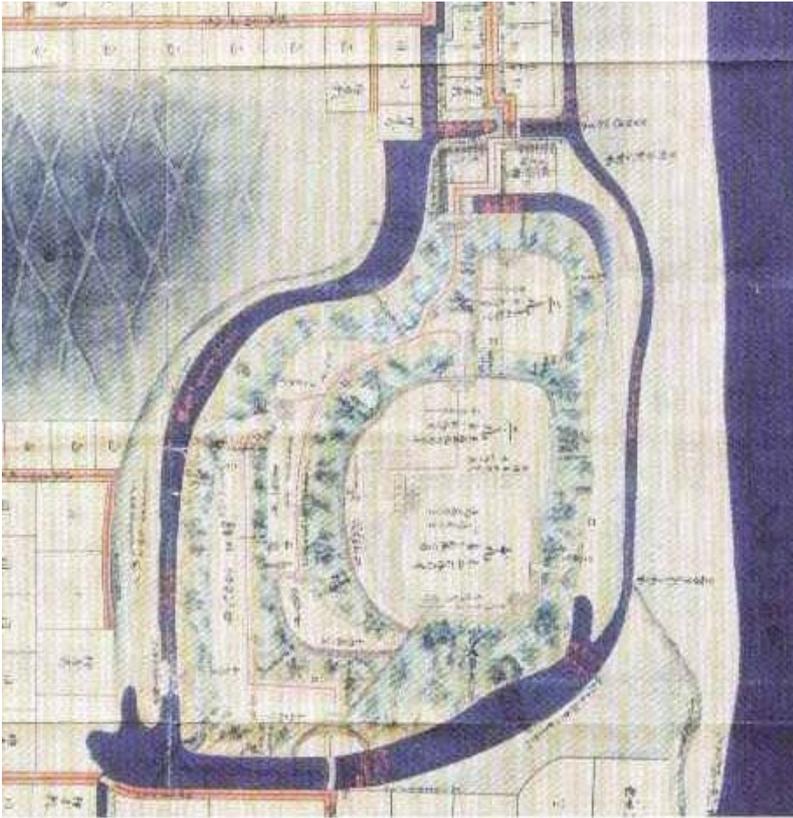
(イ) 遺構

曲輪をかたちづくる急な斜面は「切岸」と呼ばれ、その形は本丸～三ノ丸にかけての一带が往時の形状を概ね残していると考えられます。

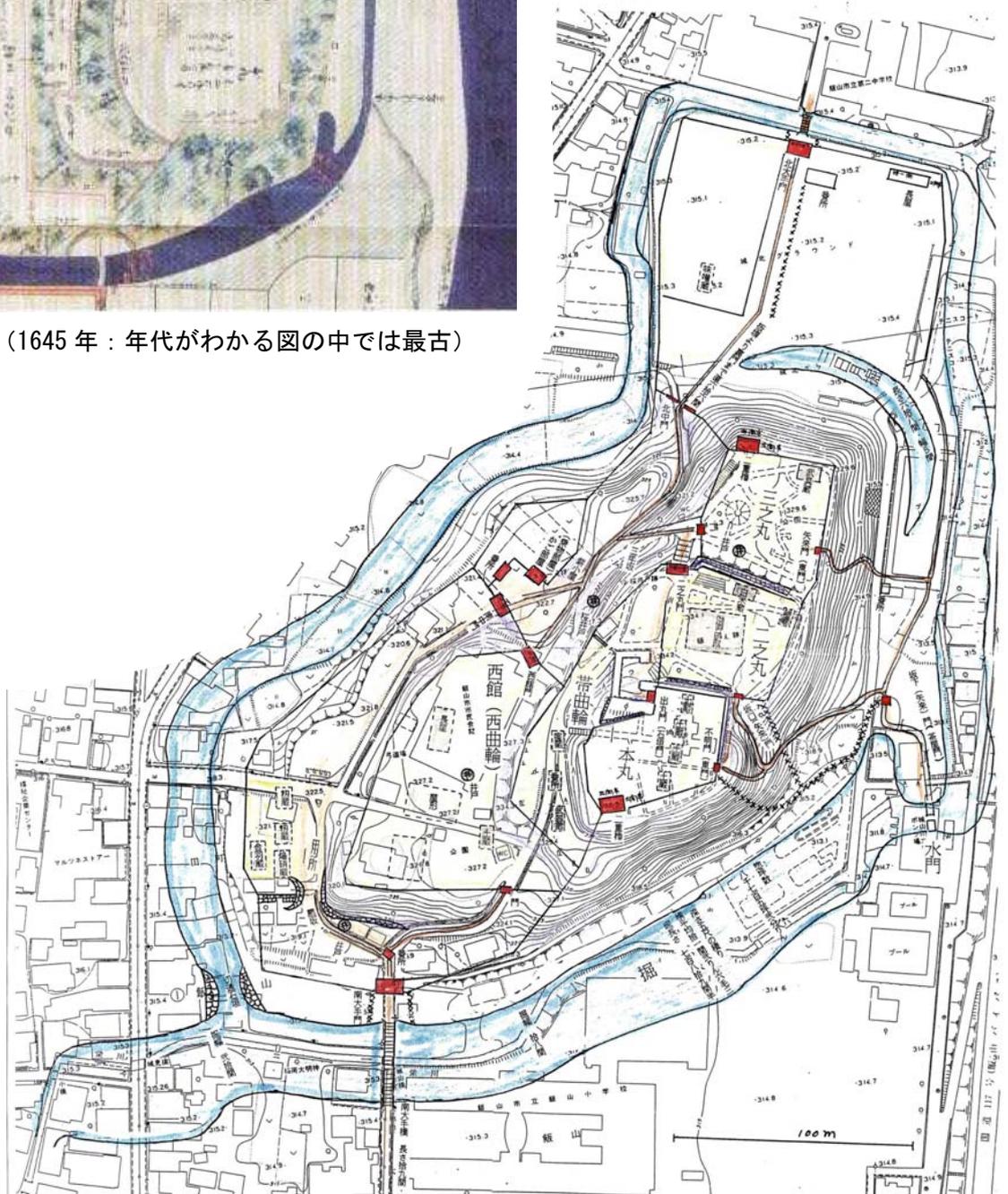
石垣は本丸の一角に残されています。門や櫓、御殿などの建物のうち、門のいくつかは払い下げられ、移築されました。

払い下げられた門のうち、大手門は、長野市信叟寺の山門として残されています。移転後二層の部分が火災で焼失しています。このほか、飯山市神明町の妙専寺の山門は本丸不明門と伝えられています。また、長野市の田子や中野市江部にも存在しています。

なお、これらの詳細は、本書13～18ページに整理します。



正保の絵図（1645年：年代がわかる図の中では最古）



現在の地形図と往時の状況との重ね合せ

図 2.1.7 過去の絵図と現況との関係

(3) 県史跡等の指定

飯山城は、戦国時代に上杉・武田両武将の信濃経略に際し、上杉氏の最も有力なる拠点となり、大きな縄張りをもって築城され、奥信濃鎮護の要城となり、城下町経営と相まって江戸時代には有力諸族の居城となり、政治経済・文化の中心的な存在でした。

明治維新以後は、城山公園として整備され、利用されていますが、本丸、二ノ丸には、往時の城郭の形状がそのまま残されており、往時の景観、名城の面影を偲ぶことができることから、県史跡の指定（昭和40年7月29日）に至っています。

県史跡の指定区域は下図に示す本丸及び二ノ丸の範囲となっています。

また、城山公園とその一帯は埋蔵文化財包蔵地として位置付けられています。

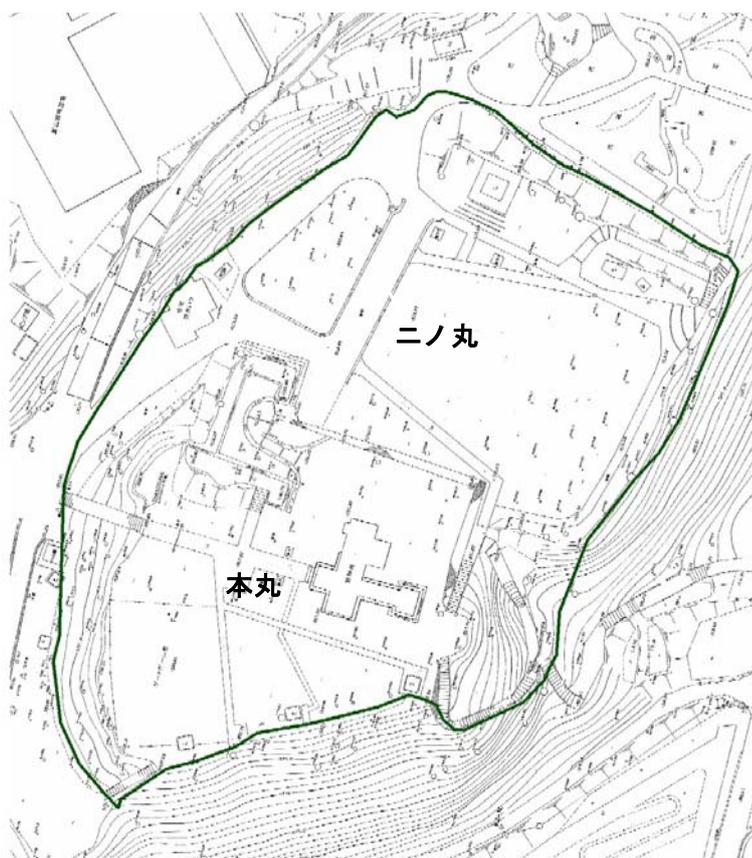


図 2.1.8 長野県史跡指定区域

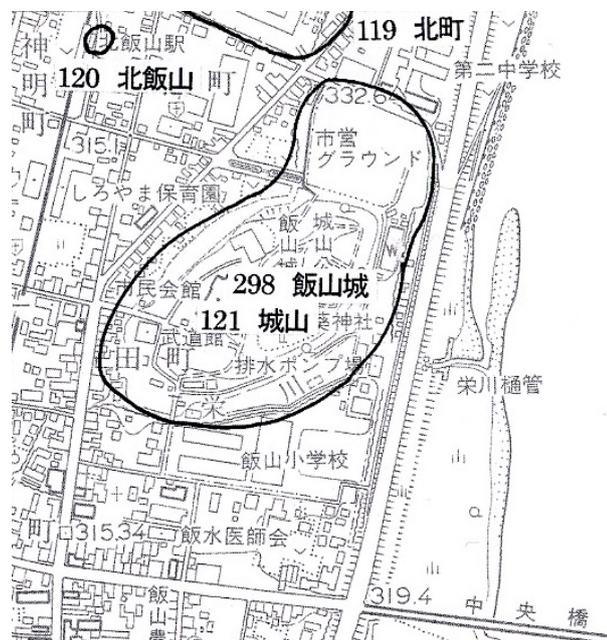


図 2.1.9 埋蔵文化財包蔵地

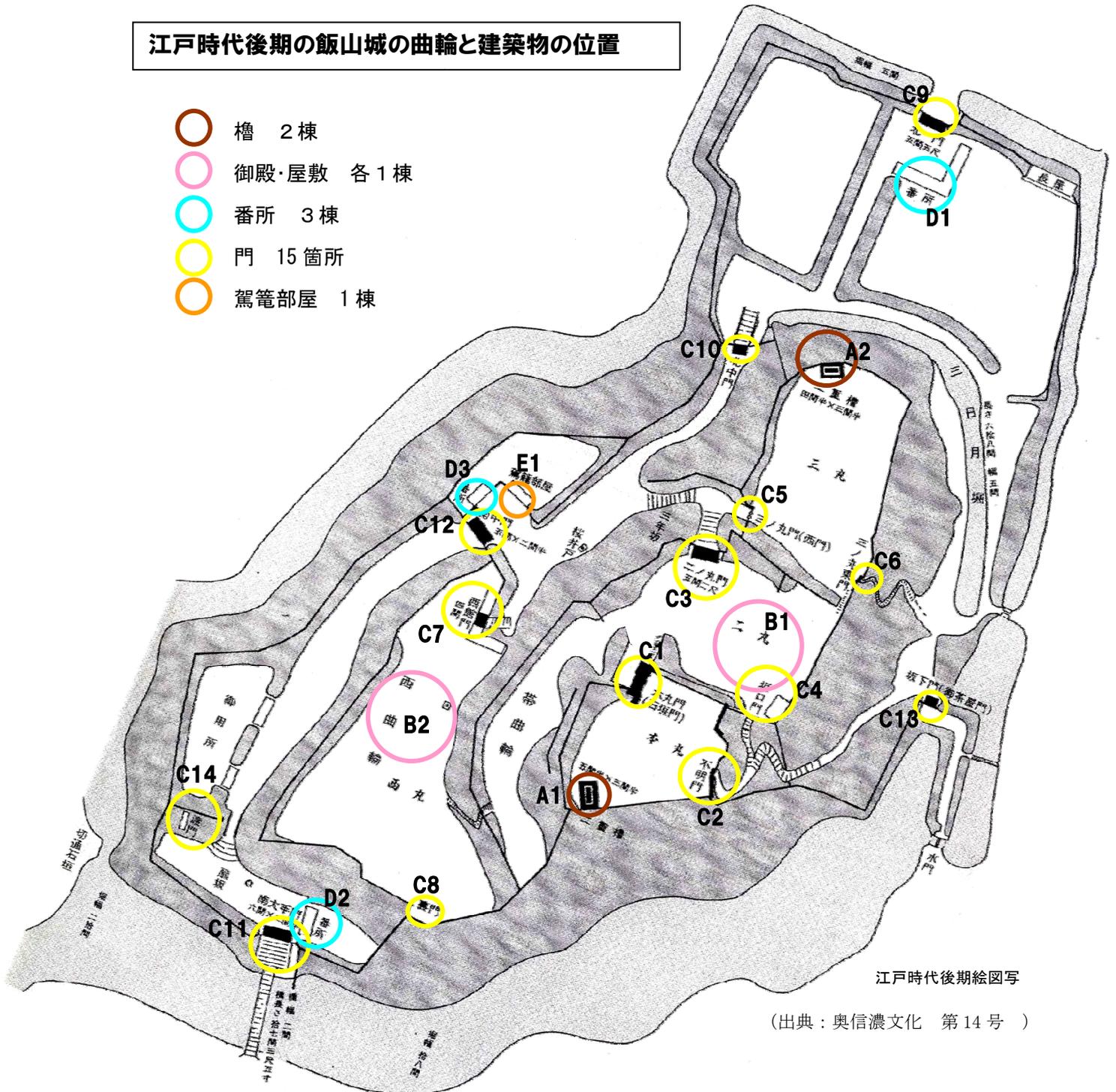
(4) 遺構に関する調査結果の概要

過年度の調査結果等をもとに、現存する史料から把握された遺構の規模や場所の概要を整理します。

下図に江戸時代後期の飯山城の曲輪と建築物の位置を示します。

江戸時代後期の飯山城の曲輪と建築物の位置

- 櫓 2棟
- 御殿・屋敷 各1棟
- 番所 3棟
- 門 15箇所
- 駕籠部屋 1棟



江戸時代後期絵図写

(出典：奥信濃文化 第14号)

図 2.1.10 江戸時代後期の飯山城の曲輪と建築物の位置図